

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0975
施設名	両国・なかよし保育園
施設所在地	京都墨田区両国1-10-7 ふじの系ビル2
法人名	社会福祉法人悠晴

1. 活動のテーマ

<テーマ>

表現 ～「すみだから」を使った創作あそび～

<テーマの設定理由>

「子どもたちが持つ思いや力を、言葉や姿で豊かに表現してほしい。」そのような願いを込めてテーマを設定しました。

大人は子どもたちに、「正しく教えてあげる」ことを正解と思いがちです。大人が求める行動や姿を実践することも大切ですが、子ども一人ひとりが自分自身の表現を認められること、安心して自分の気持ちを表現する喜びを感じてもらえたら嬉しく思います。

2. 活動スケジュール

9月 職員による創作あそび / 4・5歳児による創作あそび

10月 4・5歳児による創作あそび / 11月 3～5歳児による創作あそび

12月 3～5歳児による創作あそび / 2月 3～5歳児による創作あそび

3月 3～5歳児による創作あそび

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

墨田区の工場などから出る「廃材」を製作活動の「素材」として取り入れました。

プラスチックのキャップやスポンジ、紙、布、ゴムなど様々な素材が集めて、創作あそびを楽しみました。

好きな素材、適した素材を自分で選び、糊やセロテープなども自分たちで使う量を調整して使います。

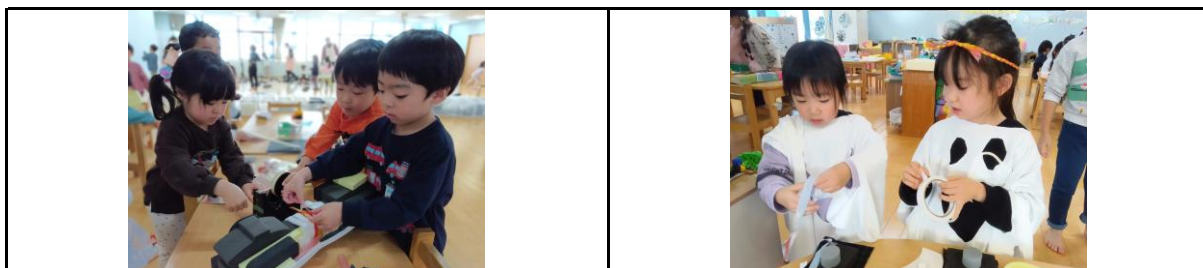
4. 探究活動の実践

<活動の内容>

素材を使って、子どもたちは夢中で好きな物を創り出した。男の子は銃のような武器が人気で女の子はドレスづくりをする子もいた。戦いごっこに発展する子やファッションショーのように振舞う子など、創作あそびから遊びが発展する姿も見られていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めの頃は、自由に創ることは難しく事前に保育者がデモで作成した物をモデルにして創る子が多くいた。真似をすることを楽しみ、次第にオリジナルの物が出来上がるようになった。糊やテープ、素材も初めは多く使用していたが、経験を通して適切な量を自分で考えるようになる姿も見られていた。自信を持って創作する子の姿が多く見られ、出来上がった物を嬉しそうに見せてくれた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の経験は、ルールの中にある「大人が余計な口出しや手出しをしない」ということがポイントであったと思う。無意識の中で、大人が子どもの挑戦したい気持ちを止めてしまったり、広がる可能性を狭めてしまったりしていたかもしれない。今回の活動を通して自分たちの墨田区の街にも興味を持つきっかけにもなってくれたと思う。今後も継続していきたい。